

EAR HP4 ¥723,450



●インピーダンス：40K Ω ●感度：300mV ●ヘッドホン出力：ハイインピーダンス×2、ローインピーダンス×2 ●ライン入力：バランス×1、アンバランス×1 ●ライン出力：バランス×1、アンバランス×1 ●アウトプット：approx. 1000mW ●使用真空管：6SL7×4本 ●消費電力：60W ●寸法：W245×H95×D320mm ●重量：6.0kg
問い合わせ先：ヨシノトレーディング ☎050-3375-3975

厚みがあり、しなやかで柔らかい包み込まれるような極上の音質

一聴して豪華絢爛でゴージャスだが、決して嫌みはなく華美過ぎない、品位と必然のある音色。全帯域において厚みがありしなやかで柔らかい音なのは勿論、さらに包み込まれるような極上の音質。空間描写などハイファイ感や情報量は若干落ちるものの、音の粒立ちも良く非常に瑞々しいサウンドで、音源に封じ込められた演奏を、生き生きとした音楽表現で再生し堪能する事ができる。特に真空管マイクで録音したアナログ感のある音源との組み合わせでは、その真空管サウンドの相乗効果が格別の音世界を実現させており、無論アナログソースとの相性も抜群だろう。

ヘッドフォンアンプの試聴を終えて

今回試聴したヘッドフォンアンプは、機能面ではヘッドフォンアンプとしての機能のほか、スピーカー出力やリアアンプ出力、DACやD/A機能を持つものなど、多機能な製品も目立った。よって、純粋にヘッドフォンアンプとしての使用のみで現在のメインシステムに導入するのは勿論、サブシステムやPCオーディオシステムの構築を目的としての導入も行なう事が可能だ。音質傾向としても、徹底的に解像感を追い求めたもの、重厚かつスイートなもの、モニター調のサウンドのもの、真空管の良さを活かしたサウンドのもの、真空管とトランジスタのハイブリッドや、両方搭載し切替が可能なものなど、非常に多彩であった。

いずれも、内蔵ヘッドフォン出力よりもさらに一歩踏み込んだキャラクターを提示するものであり、スピーカー、アンプと同様に、ヘッドフォンの持つ能力や魅力をより引き出す事ができる、多様な表現の可能性を持っていた。ハイエンドヘッドフォン単体でも充分にハイレベルな音質を楽しむことができるが、高性能なヘッドフォンアンプと組み合わせる事で、ヘッドフォンでしか味わえない音世界が、より格別なものになるだろう。市場が極めて充実している今、ヘッドフォン本体のリケーブルや、好みの線材による自作ケーブルでの音色調整も含め、ヘッドフォンアンプと組み合わせただけの究極のヘッドフォン再生を追い求めはいかがだろうか。

